



義務教育学校

育親学園だより

郷親創育

亀岡市立育親学園

臨時号

令和6年10月15日

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/giku/>



「育親学園 初の学園祭」

体育祭終了後、学園祭まで、登校日はわずか8日。子ども達の仕上がりが、正直心配な状況でしたが、元気と感動を与えてくれる素晴らしい発表となりました。育親学園では、ステージ制をとっています。学年やステージ、全校等、様々な場面や集団で学ばせることが、子ども達の成長につながると考えています。

1st ステージ(1~4年生)は、「ホップ・ステップ・ジャンプ」ダンスを披露してくれました。子ども達は、休み時間にも楽しそうに練習をしていました。本番、子ども達のあふれる笑顔と、全身で楽しさを表現する姿は、元気を与えてくれました。また、4年生リーダーを中心にしたメリハリのある取組姿勢に成長を感じました。

2nd ステージ(5~7年生)は、「We are the world」英語の合唱に取り組みました。歌詞を覚えることに加え、ハーモニーを作り上げることが課題でした。7年生がリーダーとして練習を引っ張る姿も印象的でした。声量を上げるため、広いグラウンドで発声する等、大きな集団で一つのものを創り上げる醍醐味を味わうことができました。

3rd ステージ(8・9年生)「大切なもの」の混声合唱は、低音と高音が織りなすハーモニーが、さすが8・9年生というすばらしい合唱でした。入場から発表、退場までの凛とした姿は、学園のリーダーとしての頼もしさを感じさせるものでした。

ラストを飾ったのは、9年生の劇「命どう宝〜沖縄のガマから〜」です。修学旅行で学んだひめゆり学徒隊を元にした平和への想いを表現しました。照明や音響、大道具等全てを行うため、全員がそろわないと、本番同様の練習はできません。体育祭や学園祭リーダーとしての役割、ステージでの練習等、時間的制約のある中、本番では、平和の尊さや大切さを訴える感動的な劇となりました。実は、前日まで一度も通し練習ができていませんでした。そんな中、9年生は、ばっちり決めてくれました。プレッシャーもあったと思いますが、最高学年としての気概を感じる事ができました。

子ども達は、ステージや学年での取組を通して、様々な経験を積み、力をつけました。これは、義務教育学校ならではの教育です。自ら学ぶ姿勢は、学習の最大効果につながります。様々な場面、集団の中で学ぶことを通して、どんな環境でも「自ら学ぶ力」をつけていきたいと考えております。多数の参観、温かい拍手をいただきましたことに対し、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

校長 久保 日出樹

